

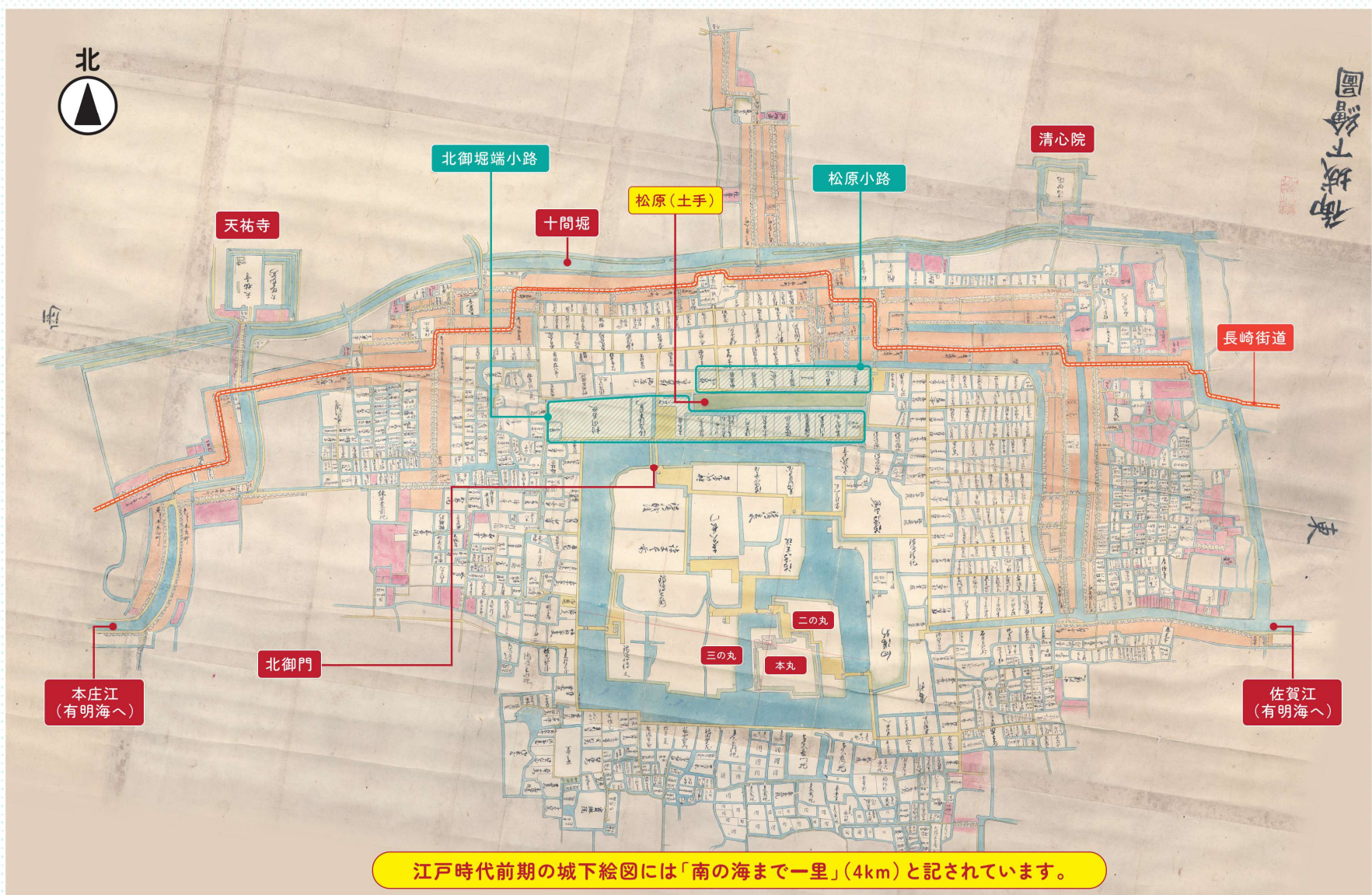


佐賀城下は どこを向いている？

佐賀城下は北を重視して設計されたまちです。

正 方形のお堀に囲まれた佐賀城を中心とし、左右対称に広がっているのが佐賀城下の特徴です。海が徐々に陸化した平地のため、自由な設計が可能でした。しかし、まちの重要度は均等ではなく、実は北側が最も重視されていました。藩の政治を行う本丸や二の丸が南端に位置する佐賀城は、南を背にした北向きの城と言えます。長崎街道も北寄りに設定され、まち全体を取り囲む十間堀は北の山からの水を受け止めます。出城の機能をもつ寺院(清心院と天祐寺)の位置から、軍事的にも北向きの備えが重視されていたことがわかります。有明海が近い南側にはその必要はありませんでした。

佐賀城の正門は北御門です。北御門から、大事な北側に展開する北御堀端小路や松原小路などの武家地一帯が、現在の佐賀市松原です。近代以降も鉄道や高速道路、サンライズパークなど、まちは城下のさらに北側へと広がっています。



文化御城下絵図 文化7年(1810)頃
鍋島報効会(徴古館)所蔵